

秩父長瀬の地で、グラフィックやWeb、アパレル、音楽まで生活にまつわるあらゆるものを手がけてきたデザイン会社

埼玉県の広報紙「彩の国だより」や秩父鉄道の沿線情報誌「PALETTE (パレット)」、観光協会のホームページなどさまざまなジャンルのデザインを手がけるコア。機能的で美しく、かつ高い発信力を備えたデザインは、クライアントはもとより多くの人に支持されてきた。今後も、これまで積み重ねてきた実績・実力・チームワークで豊かな社会づくりに貢献し、人々に幸せを届けていく。



代表取締役 小林 真氏

- 代表者 代表取締役 小林 真
- 設立 昭和29年5月
- 資本金 1,000万円
- 従業員数 13名
- 事業内容 グラフィックデザイン(広報紙・誌、冊子、ポスター、パンフ・リーフレット、サイン、ロゴマーク、書籍等)、看板デザイン・制作、サイン計画、Webデザイン、映像・動画、ブランディング、テキスタイル
- 所在地 〒369-1305 埼玉県秩父郡長瀬町長瀬1505
TEL 0494-66-0107 FAX 0494-66-2429
- URL <https://coa-co.com/>

上長瀬駅から徒歩10分弱。すぐ近くに荒川が流れ、木々を飛び交う鳥のさえずりが聞こえる自然豊かな地に、株式会社コアの瀟洒な社屋がある。

同社は埼玉県や県内市町村、金融や旅行会社、飲食店などの企業を中心に、ポスターや広報紙・誌、パンフレット、Web、書籍等さまざまな媒体のデザインを手がける。多くの人が目にする埼玉県の広報紙「彩の国だより」や秩父鉄道が毎月発行する沿線情報誌「PALETTE (パレット)」も同社が制作しており、デザインワークだけでなく記事の企画・作成も担う。

「PALETTEには3年ほど前から携わっています。企画を立案し、秩父鉄道さまとよく話し合い、ライターやカメラマンと一緒にページを制作しています。クライアントの担当者さまからは、『手に取ってくださった方から、非常に評判がいい』と、お褒めの言葉をいただいています」(小林真社長)

社内にはこれまで手がけた成果物が数多く並ぶ。時に大胆に時に愛らしく写真を使い、見る人をくぎ付けにするポスター、数多くの情報がすっきりと紙面にレイアウトされ、すぐさま目的の項目を探せるパンフレット、訴求力のある写真とデザインで市や町の観光名所を

伝えるパンフやホームページなどなど。そのどれもが機能的でありながら美しく、視線を奪われるものばかり。それもそのはず、それら一つひとつに同社の強みである“デザインの力”が込められているからだ。

→ 秩父銘仙等の図案制作からデザイン事業へ

同社の創業は昭和29(1954)年。社長の父である先代が、秩父銘仙の図案を制作する有限会社小林図案社として立ち上げた。

「父は織物の町、群馬県桐生の出身で、職人として秩父に来て秩父銘仙の図案を手がけていました」

同社は、女性のおしゃれ着として生活の必需品であった秩父銘仙の“機能”と“美”を追求しながら、長年にわたり図案をつくり続けてきた。「デザインは生活そのもの」——という姿勢は、そうしたモノづくりによって形づくられ、2代目小林社長に引き継がれた。

小林社長は美術大学を卒業後、大手カメラメーカーでグラフィックデザイン業務に携わったのち、同社に入社。商業デザインで培ったスキルとノウハウを発揮して、秩父銘仙の図案やカーテン・座布団カバー等、

和装インテリア製品の制作に励んだ。そして、グッドデザイン・Gマークを2点獲得する。

ある日、長瀬で旅館業を営む親族からの紹介で、観光ポスターの仕事を請け負ったところ……。

「当時は広告という媒体が脚光を浴び始めていた時期でもありました。そこで当社が制作したポスターが日本観光連盟の賞を受賞し、雑誌などに紹介されました」これが同社のデザイン事業の、初めの一歩となる。

➔ デザイン力で次々とコンペを勝ち抜く

今でこそデザインは広告やプロダクトはもちろん、町づくりや社会課題の解決など、幅広いカテゴリーで活用されるが、1980年代はその必要性がなかなか理解されない時代であった。

「秩父のカメラマンとPR媒体などグラフィックデザインの営業に行ったのですが、『いい写真は欲しいけれど、デザインはいらないよ』と、言われました」

その後も図案業を営みながら、地元の広告デザインを手がけていた同社。それが埼玉県庁の広報の仕事をする担当者の目にとまり、仕事の依頼が舞い込む。こうしてグラフィックデザインの仕事が少しずつ増えていった。さらに、埼玉県庁で県の「ガイドブック埼玉」のコンペに声がかかり応募。見事採用を勝ち取ったのだ。

同社が手がけたガイドブックは、充実した情報量で埼玉県の良さを余すところなく紹介しながらも、読みやすさを追求したデザインで、さらに県の魅力が一目で伝わる視覚的な工夫が凝らされ、県庁や利用者から高い評価を得る。その後、10年余りにわたってコンペを勝ち抜き、同ガイドブックを手がけることとなる。

「埼玉県に引っ越してこられた方に県を説明する本なのですが、県職員の方が自分の県をより詳しく知るための本としても読まれていたようです」

以来、税務課や観光課などのコンペにも積極的に参加し、県の仕事を数多く引き受けることとなった。周囲からは「熊谷駅にある埼玉県のポスターはコアが手がけたものばかり」と冷やかされたこともあったとい

う。県民活動総合センター「いきいき埼玉」のポスターは海外の国際コンペで入賞を果たしている。

“デザインなんていらない”と言われた時代に、観光ポスターやガイドブックなどの媒体でデザインが持つ「伝える」「心を動かす」「行動を促す」力を示し、道を切り開いていった同社。県庁からも「県庁にデザインを持ち込んでくれたのはコアの社長だ」と、賛辞をもらったという。



➔ 昨年から「彩の国だより」を手がける

同社は、以前にも手がけた実績のある「彩の国だより」(平成9年には全国広報コンクールで一席)に、昨年から再び携わる。

今回のコンペにおいては都内大手企業など多くの競合が出そろった中、埼玉を知り尽くし技術とノウハウで読者に訴求するデザインを提案した同社が受注を勝ち取った。同社によって刷新された「彩の国だより」は従来のレイアウトを変え、読みやすさを重視した横組みで展開。ドローンを使って県内の景色を撮影するなど目を引くビジュアル等で見せながら、興味を引き、伝わりやすいレイアウトで埼玉の情報を発信している。

そのほか熊谷市観光協会のWebデザイン、埼玉高速鉄道や秩父鉄道のロゴデザイン、浦和競馬はロゴデザインのほか出走時の音楽までも同社が担う。音楽祭などのイベントポスターや旅行会社の観光チラシ、産業振興のポスターやチラシ、熊谷ラグビー場の階段グラフィック、テレビ埼玉の番組ガイド、県内の歴史ある建造物の調査パンフづくりをきっかけにガイドブック「埼玉たてものトラベル」という書籍の制作、さらに



「埼玉たてものトラベル」表紙(左)と中ページ(右)



左から、埼玉高速鉄道ロゴ、秩父鉄道ロゴ、浦和競馬ロゴ、埼玉県歯科医師会ロゴ

アパレル製品のデザインや建築提案、音楽など幅広いフィールドでデザインワークを展開してきた。

「クライアントさまの意向をくみ取りながらデザイナー目線で、『こういう考え方もあるのでは?』とやり取りをして形にしてきました」

そして今回、埼玉りそな銀行が発行するミニディスクロージャー誌「埼玉りそなTODAY」も手がける同社。実力と魅力のあるスタッフが一丸となり、今日まで磨き上げてきたデザイン力を強みに、人々の暮らしに関わるあらゆるものを制作している。

→ 町おこしや地域の活性化にも貢献

秩父生まれの小林社長は、地域の活性化に向けた

活動を積極的に行う。国際青年年となる昭和60年に開催した「白鳥座コンサート」がそのスタートであった。

昭和62年には、役場や商工会、青年部や婦人部などの有志で力を合わせて「森の記念日」というイベントを開催。有名エッセイストやカヌーイストを招いて牛丸焼き、筏下りやトークショーを開き、大いに地元を活気づけた。また、秩父銘仙の活性化にも一肌脱ぎ、ジャパンブランド育成支援事業に採択されたプロジェクトを牽引。秩父銘仙をベースに、秩父産のシルクでスタイリッシュなアパレル製品をデザインし、ニューヨークでの展示会にも出展した。

「地域を盛り上げたいという気持ちはありますね。東京にいた頃から、秩父に帰りたいという思いはありましたから」

平成25(2013)年からは毎年、秩父の水にこだわった「わくドキ会」を開催。秩父の日本酒やウイスキーやワイン、ビールなどを発信する町おこしの活動も行っている。

→ 秩父の地にこだわりデザインを生み続ける

同社の社員は13名。幅広い年齢層で女性が多く活躍する。育休を終えて職場に復帰したり、一度退職して都内で働いたのち戻ってくる社員もいるという。

また、秩父近隣の社員だけでなく、群馬や福島出身のスタッフもあり、自然豊かな場所で育児と仕事ができる環境も同社が選ばれる要因の一つであるようだ。

創業以来、一步一步順調に、着実に成長を続けてきた同社。その秘訣はどこにあるかと尋ねると……。

「新しいことに物おじせず、前向きに挑戦してきたことでしょうか。それが多くのクライアントの方々に『コアなら何か面白いことをやってくれるんじゃないか』と、期待感を持ってもらえたのではないかと思います」

秩父の地で長きにわたり、官公庁や企業のニーズ、課題をデザイン力で解決していった同社。今後も機能と美、高い発信力にこだわりながら、あらゆるデザインニーズに応え、より良い社会づくりに貢献していく。